

第3章 劇「南風Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」

①劇「南風Ⅰ」台本

《CAST》

アキ……………KE
同級生①・マイ……………NM
同級生②……………YA
中友指導員……………YH
中友同級生①……………NM
中友同級生②……………SK
中友同級生③・タケル……………FT
アキ父……………KJ
アキ母……………NA
アキ妹・エツコ……………YA
アキ祖父……………NR
アキ曾祖母……………AM
アキ曾祖父・タケシ……………SR
タケシ長兄・マサル……………MD
タケシ兄・マモル……………YH
タケシ妹・ユミ……………TM
タケシ父……………ST

タケシ母……………NM
配達員・郵便配達人……………SK
ケイタ……………HY
サッカー仲間①……………TR
サッカー仲間②……………HY
ケイタ父……………TY
ケイタ母……………MM

《STAFF》

演 出……………KC, KY
TY, MT
YY
照 明……………ST, HA
HA
映 像……………MY, MN
特殊編集……………SR, YN

夕暮れとともに ぞめきのリズムが還ってくる
そして ぞめきに乗って あまいクチナシの花が香ってくる
これは 戦争を知らない若者たちの 自分探しの旅
そして 小さな 恋の 物語
また 夏が来る 南風とともに

シーン① 「アキ中学 1 年生」

《中学校の教室》

ナレーション・アキ 私は加嶋アキ。徳島市内の中学 1 年生。この前のテストで、見事クラス 3 番を
ゲット！そして、親と約束してたケータイも、ついにゲット！クラスにはまだケータイ持
ってない子も多いけど、欲しかったんだよねえー。

アキ おはよう！

同級生①② おはよう。

同級生① どしたん、今日は朝から機嫌ええでえ。

アキ ほらもうー！

同級生② ほらもうって、何かあったん？

アキ ケータイよ。

同級生① えーっ！アキ、ケータイ買うてもうたん？！

アキ へへー、成績あがったけんな。

同級生② いいなー。

アキ なあなあ、アドレス教えて！

同級生② 私持ってないしー！

同級生① ほな私言うわ。

ナレーション・アキ 私たちは、入学してからの同じクラスの仲良し3人組。といっても、入学してからまだ半年しかたってないけど。

同級生② なあ、今日の総合で来年の修学旅行の話するんやって。どこになるんだろう？

同級生① ほら東京がええん決まっとんでー！なー！

アキ みんなでディズニーランド行こなー！

同級生② ほなけど、沖縄とかもええことないで？

同級生① 何言よん、沖縄やったら一泊少ないんじよ。

アキ ええ〜、ほうなん？

同級生① うん、この前先生が言よった。

同級生② ほな、東京の方がええんかなあ…。

アキ ほらほうじゃって。

同級生② ほな、みんなでジュラシックパーク乗ろうなー！

同級生① ほれはU S Jだろー！(笑)

シーン② 「ケイタ高校1年生」

《高校の教室》

ナレーション・ケイタ オレは、澤口ケイタ。埼玉県内にある高校1年生。サッカー部に入部して、もう半年。一応サッカーでは名門校ってとこ。県大会も今のところベスト4。次は準決勝なんだけど、次の試合は…ちょっと厳しい。あと少しで全国ってトコなんだけど…。

サッカー仲間① よっ、お疲れ。

サッカー仲間② お疲れー。

ケイタ お疲れー。

サッカー仲間① 今日ケイタ調子よかったじゃん。

ケイタ たまたまだよ。

サッカー仲間② たまたまでも何でも、2得点だぜ。結果出してんだから、すげえよ。

ケイタ 何言ってんだよ。先輩がシュートしたボールをキーパーがはじいて、目の前に転がってきたのをけり込んだだけじゃねえかよ。

サッカー仲間① まあまあ、運も実力のうちだって。

ケイタ お前、ホントにそう思ってる？

サッカー仲間① て、中学の先生が言ってた。

ケイタ だろ？！そんなもんだよ。

サッカー仲間② いや、それでもすげえよ。なんつったって、ケイタはオレらの代じゃエースだかな。

サッカー仲間① あっ、今日さ、先生から聞いたんだけど、来年うちの学校、修学旅行広島に行くんだってさ。

サッカー仲間② えー?!マジ?広島とか行って、どうすんだよ。

ケイタ あれじゃねえの、ほら、原爆ドームとかかってやつ。

サッカー仲間② あれって、長崎じゃなかったっけ？

サッカー仲間① ちげーよ。そりゃ、チャンポンだろ。

サッカー仲間② あっ、そっか。長崎チャンポン。

ケイタ けど、あれかな、戦争とか、平和について考えようみたいな。

サッカー仲間① そんなの興味ねえつつうの。だいたい、古いんだよ。学校の先生ってさ。もう戦争なんか起きねえつーの。それに、今さら広島行って、放射能にでもあびたらどうすんだよ。

サッカー仲間② お前、それはねえだろ。もう100年もたってんだぜ。

ケイタ そんなにたってたっけ？

サッカー仲間② そんなにたってねえか。まあ、オレらはどうせサッカーで遠征があるから、関係ねえって感じかな。

ケイタ まあな…。

シーン③ 「アキ・修学旅行」

《中学校の教室》

同級生① ちょっとー、修学旅行の行き先広島って、どういうことよ！

同級生② マイが東京や言よったけん、私もう親に言うてしもうたんでよ。

同級生① 私は東京がええって言うただけで、東京に決まったや言うてないでえ。

アキ 私やってえ、東京と思うとったのにー。

同級生① アキまでー。私はな、東京がええって言うただけでえ。勝手に決めた学校がおかしいんじゃないわよー！

同級生② あー、夢に見たディズニーランド、お台場、渋谷、原宿、軽井沢…。

アキ 軽井沢って、東京だったっけ？

同級生② あれっ？ちゃうかったっけ？

同級生① 軽井沢って、どっか山の方ちゃうん。

アキ・同級生② あんたは黙っとき！

(言い争いのまま終わる)

ナレーション・アキ その日の夜、私は中友に行った。中友は、地元の親たちが会館を開けてくれて、そこに指導員の先生が来て、勉強や同和問題について教えてくれるところ。私にもよく分からないけど、何か…いつの間にか流れで来てるって感じかな。

シーン④ 「戦争と人権」

《中友の教室》

中友同級生① なあなあ、修学旅行の話聞いた？

アキ ほれよ！私はてっきり東京と思うとったのに…なあ！

中友同級生② えー、私は東京でない方がええ。

中友同級生① なんでー？！

中友同級生② ほなって、人が多いんイヤやもん。

アキ なあ、先生ー。修学旅行広島に行くって、どう思う？

中友指導員 ん？ええんちゃうん。

中友同級生① ええんちゃうんて、あっさり言うけど、近すぎへんの？

中友指導員 近い遠いの問題ではないでしょー。

アキ ほらほうかもしれんけど、一生一度の修学旅行じよ。このメンバーで行く最後の修学旅行じよ。もうちょっと思い出づくりの場所あると思わんで？

中友指導員 いやいや、自分らにしたら、みんなで行けたら、どこでも思い出になるんちゃうん？あんまり場所は関係ないと思うけどなあ…。

中友同級生① ほらあまいわ。ほんなもんちゃう。やっぱり場所は大事じゃ。

中友指導員 タケルはどう？

中友同級生③ 僕は別にどこでもええよ。

中友指導員 なっ、ほうだろ！

中友同級生① あんたは黙っとり。

中友同級生③ ほんな横暴な。

中友指導員 いや、ここは同和問題を考える場なんやけん、人権の意味からも、ヒロシマに行くことは意味あると思うけどなあ。

アキ 同和問題と広島はどこに関係があるん？

中友指導員 ほなってな、同和問題は部落差別について考えることだろ。戦争は最大の人権侵害っていうけん。

中友同級生① 先生、部落差別って、ホンマに今でもあるん？聞いたことないんやけど。

中友指導員 うん…まあ、あるわな。言う人は言よるし。言う人がおらんようになったらええんやけどなあ…。ほれに、前にも学習したと思うけど、狭山事件やってえ、まだ解決したとはいえんしな。

アキ・中友同級生① うん…。

中友指導員 一応判決は出とるっていうけど、部落差別を元にした冤罪っていうことで、まだ続いとるしなあ。ほれに、石川一雄さんと結婚しとる人は徳島の人やし。ほれをもう部落差別はないっていうんは、ちょっと…おかしいと思うな。ほれに今年も、ネットやみんなの知らんところで、部落差別は起きとんでよ。

アキ ふーん。ほなけど、やっぱり、同和問題と戦争のことが関係あるっていうんは…何かよう分からん…。

中友指導員 同和問題も、戦争の問題も、根っこは同じなんやけど…うーん…まだもっと、勉強していかなアカンなあ…。

ナレーション・アキ 中友には行ってるものの、流れで行ってるようなもので、まだ今の私には、部落差別はピンとこない。部落差別はあるっていうけど、そんなの体験したこともないし…。そんなことを言うから部落差別は残ってるんじゃないかって…。本当は誰も言わなければ無くなるようにも思えるし…。この夜、家に帰った私は、ぼんやりとケータイをいじって過ごした。

シーン⑤ 「朝高」

《ケイタ自宅・夕食》

ケイタ ただいまー。

ケイタ母 お帰りー。今日も遅かったわねー。お腹空いたでしょ。すぐ用意するわね。

ケイタ父 ケイタ、次の日曜は、サッカーどうなってんだ？

ケイタ ん？練習試合…だったと思う。

ケイタ母 えっ？準決勝戦じゃないの？

ケイタ それは来週。一週空くんだよ。

ケイタ父 じゃあ、その練習試合っていうのは、どこでやるんだ？

ケイタ うちでやるよ。

ケイタ父 相手は？

ケイタ 朝高。

ケイタ父 ほー…。

ケイタ母 何？朝高って。

ケイタ 朝鮮学校だよ。朝鮮学校の高校。だから、朝高。

ケイタ母 あら、じゃあ、ヨン様みたいな子とかいるの？

ケイタ そんなのいるわけねえだろー。何言ってんだよ母さんは…。

ケイタ父 どうなんだ？それで、朝高は強いのか？

ケイタ うーん、強いし速いって感じかなあ…っていうか、ヤバイ。

ケイタ父 ヤバイって、何が？

ケイタ もう、すんげえ、軍隊。

ケイタ父 軍隊？

ケイタ うん。練習とか、ホント、マジ軍隊みたい。

ケイタ父 ほー…。

ケイタ それに、ベンチからの指示とか、応援とかもヤバイ。みんな怒ってる感じ。何か、やってこっちまで恐怖感じるもん。

ケイタ母 そうなの？大丈夫ー？気をつけるのよー。

シーン⑥ 「プロフ」

《それぞれの部屋》

アキ そういやマイがプロフ作ったって言よったつけ。えーつと…。あーあった、あった。へー、こんなんできるんじゃ。私も作ってみようかな…。

ナレーション・アキ 興味本位で作ったプロフ。何も悪いことはしてないよね…。そうだ！とりあえず、修学旅行のことを書き込んでみようかな…。

ケイタ あー、疲れたー。(メールチェックを始める)何も来てねえか…。プロフでも見てみっか…。…みんなくだらねえ書き込みばっかだなー。ん？修学旅行？なんだこれ？「みなさん、修

学旅行の行き先はどこですか？」って、何か、変なヤツ。フツーこんなこと書かねえだろ。まっ、いいや。「オレ広島」と。

アキ あっ！きたー！ほんまに来るんじゃー！埼玉の高校生？しかも、行き先、同じ広島？へー、埼玉の高校って、広島に行くんじゃー。えーっと、「はじめまして」と。「私は徳島の中学1年です。修学旅行で広島に行くというので、しけてます」と。

ケイタ おっ、来た来た。へー、やっぱしけてんだ。同じじゃん。「同じくしけてます」と。

アキ 「どうして学校の先生って、どこも同じように考えるんですかね」と。

ケイタ 「真面目なんじゃねえ？」と。

アキ 「もっと楽しみたいよー！」と。

ケイタ 「だよね」と。

アキ 「私はディズニーランド行きたいよ〜！」と。

ケイタ 「オレはどこでもOK！」と。

アキ 「いいですね。東京が近くで」と。

ケイタ こいつ、ディズニーランドが東京だと思ってるよ(笑)。「ディズニーランドは千葉です」と。

アキ えー？東京でなかったんー？！「えー！知らなかった…」と。

ケイタ さすが中坊。知らねえんだ。つうか、この子天然ちゃん？えーっと、「アキちゃん、おもしろいね。つーか、徳島って、どこ？東北？」と。

アキ 何？この人！間違えとんで…。「それ、福島でしょ」と。

ケイタ あっ、そっか。「じゃあ鹿児島？」

アキ ほれは徳之島だろー！「それは徳之島！四国です！」と。

ケイタ あー。「OK」と。

アキ 「あの一、徳島のことバカにしてません？」と。

ケイタ 「してない、してない。この辺のことしか分かんないだけ。アキちゃんは どうして広島がイヤなの？」と。

アキ 「もっと楽しめる所がイイ。先生は勝手ー！」と。

ケイタ 「どこも一緒。人権とか平和とか、自分の都合のいいことばっか」と。

アキ へー、そうなんだ…。「人権とかも興味ないの？」と。

ケイタ 「人権て、在日のこと？」

アキ 在日って、この前勉強した、在日コリアンのことかなあ…？「それもある」と。

ケイタ 「在日のことなら知ってるよ」と。

アキ 「どんなこと？」

ケイタ 「オレ、サッカーやってんだけど、朝鮮学校のチームスゲエ」

アキ 「どんなに？」

ケイタ 「軍隊みたい」

アキ 「何が？」

ケイタ 「練習とか、応援とか」

アキ 「へー。そうなんだ。けど、それちょっとバカにしてない？」

ケイタ 「うーん。ちょっと」

アキ 「それ、いけないよ」

ケイタ 「そっかー。OK。そっちには朝鮮学校ないの？」

アキ 「ない、と思う」

ナレーション・ケイタ 全然知らない中学生と、メールのやりとりするなんて思いもよらなかった。しかも中学生なのに、オレより何か…しっかりしてる。何なんだ？この子…。

ナレーション・アキ 全然知らない人と初めてメールのやりとりをした。知らない人だからできたのかな…。それとも、この人、案外いい人なのかな…。

シーン⑦ 「危険？！」

《登校途中・それぞれの部屋》

アキ おっはよー！

同級生① おはよう、アキ。
同級生② おはよう。
同級生① どしたん、今日はまたえらい元気なで！
同級生② 何かあったん？
アキ あんな、昨日、埼玉の高校生とメールした。
同級生① はあ？アキ！ヤバイんちゃうん？！早すぎるよー！
アキ 別にヤバイことないよー。
同級生② ほれって、出会い系とかでないん？
アキ ちゃうちゃう！
同級生① いや、どう考えてもほうだろ。
アキ ほなけど、ホンマに別に何もなかったんでよ。逆に、人権のこととか話した。
同級生② 出会い系って、ほんなことも話すん？
同級生① ほんなわけないだろー。騙されとるだけじゃわよ。悪いこと言わんけん、アキ、やめとき。
ホンマにヤバイことになるじよ。
アキ ほんなんでないって…。
同級生② あー、私もケータイ欲しいー！
同級生① あんたこそ、絶対やめとき！

サッカー仲間① おはよーっす！
ケイタ おう、おはよー。
サッカー仲間② おはよー。
サッカー仲間① どうしたんだよ、何か、ボーツとしてねえ？
ケイタ うん…ちょっと、昨日遅くってさ。
サッカー仲間② ケイタくん、なに夜遊びしてたのかなー？
ケイタ いや、そういうんじゃないけど…ケータイ…。
サッカー仲間① あー、ケー中ね。
ケイタ いや、そういうんでもなくて…。
サッカー仲間② ゲームでしょ。
ケイタ いや、メール。
サッカー仲間① いや、メールって、お前した？
サッカー仲間② オレ？オレしてねえ。お前した？
サッカー仲間① いや、オレもしてねえ。…じゃっ、誰としてたんだよ？
ケイタ いやー…それがさあ…中学生。
サッカー仲間①② 中坊ー？！
サッカー仲間① まさか…男じゃねえよなー？
ケイタ まあ…けど、真面目なメールでさあ…
サッカー仲間① いけないねえ、ケイタくん。中学生とメールしちゃあいけないよ。
ケイタ いや！ホント！修学旅行の話とかさ…。
サッカー仲間① なあなあ、フツー、知らない女子中学生と、修学旅行のことでメールする？
サッカー仲間② しない、しない。
サッカー仲間① だよね～。
ケイタ ホント！マジ！ホントなんだってー！
ナレーション・アキ 私たちは、それから毎日のようにメールをするようになった。学校のこと、部活のこと、家族のこと、友達のこと…いろんな話をするようになった。たまに学校でやっている平和学習や戦争のことについても…。でも学校でやる平和学習は、私にはよく分からなかった。遠い昔のことだった。だから…ケイタに、ちょっとした企みを持ちかけることにした。
アキ 「サッカーの試合はどうでしたか？」
ケイタ 「負けた」
アキ 「残念」

ケイタ 「修学旅行はあれからどう？」
アキ 「平和学習してるけど、よく分かんない」
ケイタ 「同じ」
アキ 「禎子の像は、やった？」
ケイタ 「やったよ。折り鶴も折るらしい」
アキ 「一つ相談」
ケイタ 「何？」
アキ 「家の人に戦争のこと聞いたことある？」
ケイタ 「ない」
アキ 「聞いてみない？」
ケイタ 「どうして？」
アキ 「うーん、何となく。イヤならいいよ」
ケイタ 「イヤじゃないけど、聞いてどうするの？」
アキ 「別にどうもしない。ケド、何か知ってることあったらいいかなって」
ケイタ 「なるほど…やってみようか」
アキ 「ホント？」
ケイタ 「うん」
アキ 「やったー！ありがと！実は一人じゃ不安だったんだ。じゃあ、私は今から聞きに行ってくる。また後で報告するね！」
ケイタ 「OK！」

シーン⑧ 「アキと戦争」

《アキ宅・夕食後の団らん・アキ曾祖母宅》

アキ 父さん、母さん、戦争のこと、何か知らん？
アキ父 知らんって、父さんは戦後生まれやけんなあー。
アキ 母さんは？
アキ母 母さんやってえ生まれてないわよ。
アキ ほうか…。
アキ祖父 ワシも生まれたんは戦後すぐやからなあ…。けど昔、徳島が空襲におうた時、土手まで逃げのびたとかいう話、ひいばあさんから聞いたことあるなあ。ほのとき、焼夷弾で家はみんな焼けたって言よったなあ…。
アキ 焼けたって…この家？
アキ祖父 この家は、戦後ずっとたってから建てなおしたんぞ。
アキ えー、ほうなん？
アキ祖父 ほうじゃ。ほら、戦争の時のこと聞きたいんやったら、隣のひいばあさんところに行ったら話してくれるんちゃうか。行って聞いてみな。
アキ あっ、そうか！分かった！ほな行ってくる！
アキ妹・エツコ あー！私も行くー！
アキ エっちゃんはええよー！
アキ妹・エツコ 私もー！
ナレーション・アキ 私は胸がドキドキするのが自分でも分かった。やっぱり身近にある。今まで私の知らなかった戦争が、今の私につながっている戦争が、きっとある。
アキ ひいばあちゃん！
アキ曾祖母 アキで、どしたん？こんな夜に。
アキ ひいばあちゃん、戦争のこと教えて！
アキ曾祖母 戦争のことかい…。ほらまたどしたんかいな？
アキ 来年修学旅行で広島に行くんよ。
アキ曾祖母 ほおー、ヒロシマに！
アキ うん。ほんでも、戦争のことがよう分かんらんのよ。ほんで、何か教えてもらえんかなと思ってる…。

アキ曾祖母 …ほら話してもええけど…ひいばあはな…ヒロシマの出身なんでよ。

アキ えーっ！ひいばあちゃんてヒロシマ出身やったん？！

アキ曾祖母 ほうなんでよ…ほらな，あの時は大変やったわ…。けどな，死んだひいじいちゃんもな，大変やったんでよ…。

シーン⑨ 「アキ曾祖父・日常」

《アキ曾祖父宅・朝食》

ナレーション・アキ曾祖母 ほれはまだ，私がひいじいちゃんと出会う前，ひいじいちゃんの家族がまだみんな徳島で幸せに暮らせよったときのこと…。ひいじいちゃんは4人兄弟の3番目。1番上のマサル兄さん，2番目のマモル兄さん，そしてひいじいちゃんのタケシ，それに，一番末っ子の妹ユミさん。よくケンカもしたらしいけど，仲のいい兄弟だったらしいよ…。

アキ曾祖父・タケシ マサル兄さん，今日はどこに行くん？

タケシ長兄・マサル 今日は，兵隊さんの手伝いで，学校のみんなど防空壕を堀りに行くらしいわ。

アキ曾祖父・タケシ ええなあ，兄さんは。兵隊さんやお国のために働いて。

タケシ兄・マモル ワシも，早うマサル兄さんみたいに働きたいわ。

タケシ父 お前や，朝ごはん前の神社のお参りは行ってきたんか！

タケシ長兄・マサル …まだ…です。

タケシ父 早う行ってこんかいー！

兄弟全員 はいー！

タケシ妹・ユミ お兄ちゃん待ってー！お兄ちゃーん！

タケシ母 これー！ちゃんとユミ連れて行ったりよー！

タケシ長兄・マサル ユミー！早う来いー！

タケシ兄・マモル ほれ，今日はタケシが寝坊したけん，お参り行ってないんバレたでないかだー。

アキ曾祖父・タケシ マモル兄さんやってえ寝坊したで。

タケシ兄・マモル ワシはタケシほど寝坊してない。

タケシ妹・ユミ 待ってー。

タケシ長兄・マサル ユミ，いけるか？

タケシ妹・ユミ うん。

タケシ長兄・マサル みんな，そろうたか。ほなお参りするぞ。

兄弟全員 うん。(パンパン)

タケシ兄・マモル …帰りも競走じゃっ！

アキ曾祖父・タケシ あっ，卑怯者！

タケシ兄・マモル 悔しかったらココまでおいでー！

タケシ妹・ユミ 私もー！

タケシ長兄・マサル ユミはええよ。ゆっくり歩いていったらええ。

タケシ妹・ユミ マサル兄さんは一緒に走らんの？

タケシ長兄・マサル 走るか？

タケシ妹・ユミ うん。

タケシ長兄・マサル ほな，兄さんと一緒にかっけっこじゃ！

タケシ妹・ユミ うん！

シーン⑩ 「アキ曾祖父・マサル」

《アキ曾祖父宅》

ナレーション・アキ曾祖母 戦争が始まるまでは，よく4人で川に行ってフナやドジョウ取ったり，土手や畑でトンボやチョウチョ取ったり，本当に仲のいい兄弟だったんやって。ようひいじいちゃんから聞かされたわ…。ほなけど…全部戦争が持って行ったんよ…。

配達員 加嶋さん，おいでますか。

タケシ母 はい。

配達員 おめでとうございます。

タケシ母 召集令状…。…ありがとうございます…。あつ、お父さん。マサルに…。

タケシ父 …ほうか…とうとうマサルに来たか…。

タケシ長兄・マサル それでは、お父さん、お母さん、行って参ります。

タケシ母 行き先が決まったら連絡してくるのよ。

タケシ長兄・マサル はい。

アキ曾祖父・タケシ 日本はいけるんかなあ…。

タケシ兄・マモル あほー！いけるん分かつとんでないか。

タケシ長兄・マサル タケシ、心配はいらんよ。日本は絶対勝つ。天皇陛下さまがちゃんと守ってくれるよ。

タケシ妹・ユミ マサル兄ちゃん、早う帰ってきてよ。

タケシ長兄・マサル ユミも母さんの言うことよう聞いて、かしこうしよるんぞ。帰ってきたら、またかけっこしような。

タケシ妹・ユミ うん！

タケシ長兄・マサル では、お父さん、お母さん、行って参ります。

シーン⑪ 「アキ曾祖父・マモル」

《アキ曾祖父宅・朝食》

ナレーション・アキ曾祖母 戦況が激しいなってきて、何もかもが戦争一色になってきたときのことやった。食べる物も少のうなって、今みんなが食べれよるような白米だけのご飯も食べれず、麦入りのご飯やおいもふかしたもんしか食べれんようになってきたんよ。ほんで、マサルさんが招集された数ヶ月後のことやったらしい。

タケシ兄・マモル お父さん、お母さん、ワシ、志願兵に志願しようと思います。

タケシ母 まだマモルは歳がきてないけん、ムリして志願せんでもええんよ。

タケシ兄・マモル お母さん、何言よん。マサル兄さんも、お国のために招集受けて戦争行ったのに、ワシだけ家にはおれん。

タケシ母 ほんなこと言うたって…。

タケシ父 …お前の好きなようにしたらええ…。

タケシ兄・マモル …父さん…ありがとうございます。

シーン⑫ 「アキ曾祖父」

《アキ曾祖父宅・夕食》

ナレーション・アキ曾祖母 ほれまで貧しいても、楽しく、仲良く過ごしてきた家族6人が、1人欠け、2人欠け…していくんは、家の中から火がポツリ、ポツリと消えていくようで寂しかったんちゃうかなあ…。

(夕食の食卓)

アキ曾祖父・タケシ 母さん、今日の晩ご飯は？

タケシ母 はいどうぞ。

アキ曾祖父・タケシ えーっ？！これだけ？

タケシ母 これだけって、これでもまだ具が入るとんやけん、ええほうなんじよ。

タケシ妹・ユミ いただきますーす。

家族全員 いただきます。

タケシ母 ユミ、これ食べ。

タケシ妹・ユミ 母さんは？

タケシ母 母さんはもうお腹いっぱいなんよ。

アキ曾祖父・タケシ お腹いっぱいって、母さん食べてないでえ。

タケシ母 お昼にようけ食べたけんな。

タケシ妹・ユミ ええん？

タケシ母 ええよ。

タケシ父 タケシも、これ食べ。

アキ曾祖父・タケシ 父さんも？
タケシ父 ワシは食べる気がせんけん、ワシの分食べとけ。
アキ曾祖父・タケシ ほな、いただきます。
タケシ妹・ユミ …何か…寂しいなあ。
アキ曾祖父・タケシ ユミ、どしたんな？
タケシ妹・ユミ ちょっと前までみんなと一緒にご飯食べよったのに…。
アキ曾祖父・タケシ あほう。ほんなこというたらアカン。兄さんやは、お国を守るために、ワシらの分も戦いに行ってくれとんじゃ。ほんなこと言うたらバチ当たるわ。…母さん、兄さんたち、今頃どこでおるんかなあ。
タケシ母 マサルは、ビルマに行って、マモルは沖縄でアメリカの攻撃に備えよるって、この前の手紙に書いとったよ。
アキ曾祖父・タケシ へえー、ビルマかー。すごいところで敵やっつけよんやなあ。
郵便配達 すみません！加嶋さん！
タケシ母 はいー。
郵便配達 小包です。
タケシ母 はい。(小包を開けながら)
タケシ・ユミ 何、何？！
タケシ母 マサル兄さんからじゃわ。わー、ランドセル。
タケシ妹・ユミ わー、ユミの？
タケシ母 ほうやな、小学校に上がるけん、マサルが送ってきたんじゃ。
タケシ妹・ユミ わーい！やったー！ランドセル！ランドセルー！
アキ曾祖父・タケシ 母さん、手紙は？何て書いとん？
タケシ母 「お父様、お母様、お元気ですか。私は元気です。ユミももう小学校に上がる歳となりましたので、ランドセルを送らせていただきました。手渡してやってください。ユミ、小学校でしっかり勉強するのですよ。私が帰ったら、またかけっこをしましょう。タケシ、マモルも志願していなくなったので、家のことはタケシがしっかりとるように。お父様も、お母様も、お身体に気をつけて頑張ってください。あと少しの辛抱です。マサルより」
アキ曾祖父・タケシ やったー！あとちょっとで勝つんじゃー！
ナレーション・アキ曾祖母 その便りがあったすぐ後のことやった…。
配達員 加嶋さーん、電報です。
タケシ母 はいー！…電報って…、父さん！
タケシ父 どした？「カシママサル ビルマニテメイヨノセンシ」…。
タケシ母 マサルが…マサルが…。
タケシ父 (絶句)
アキ曾祖父・タケシ マサル兄さんがどしたん?! えーっ？
タケシ妹・ユミ 何?お兄ちゃん、マサル兄さんがどしたん?
アキ曾祖父・タケシ 死んだ。死んでもうた…。
タケシ妹・ユミ えー?何で?日本勝つのに、なんでマサル兄さんは死ぬん?
アキ曾祖父・タケシ 兄さんは、日本のために死んだんじゃ。
タケシ妹・ユミ ほなけど…かけっこは?
アキ曾祖父・タケシ 死んだらかけっこできるわけないだろー!
タケシ妹・ユミ ほなって、約束したもん。約束したもん!
アキ曾祖父・タケシ …父さん、僕、僕も志願します。
タケシ母 何言よん!(平手打ち)タケシ!おまはんまでおらんようになったら…おまはんまでおらんようになったら…。
アキ曾祖父・タケシ 母さん、ワシは決めたんじゃ。兄さんのかたきとったる。ワシは兄さんのかたきとりたいんじゃ。マサル兄さんがやられたように、ワシもアメリカをやっつけたるんじゃ!

シーン⑬ 「空襲とランドセル」

《アキ曾祖父宅・夜・アキ曾祖母宅》

ナレーション・アキ曾祖母 そうして、ひいじいちゃんは志願兵になり、家族は本当にバラバラになって、とうとう家に残されたのは、お父さんとお母さん、それに小学校に上がったばかりのユミさんの3人になってしもうたんじゃ。

いよいよ敗戦の色濃くなってきた、昭和20年の6月には、とうとうマモル兄さんのオキナワでの戦死の連絡も入って…。それで…7月3日の夜のことじゃった…。

タケシ父 今夜も暑いなあ。もうユミは寝たんか？

タケシ母 はい。お腹空いたって寝言言いながら寝てました。

タケシ父 ほうか…。どこまで我慢したらええんかいなあ…。母さんは…いけるか？

タケシ母 私はいけますよ。

(仏壇にお焼香あげていると、空襲警報が鳴る)

タケシ父 またか…。母さん、電気消して。

タケシ母 はい。

タケシ父 …遠くで何か音がせんか？

タケシ母 そうですねえ…。

タケシ父 これは、…本物の空襲じゃっ！

タケシ母 本物って…。

タケシ父 ちょっと外見てくるわ。…あかん。街がやられよう。空が真っ赤じゃ。

タケシ母 ここまで来るかいな…。

タケシ父 分からん…。分からんけど、逃げる準備は、母さん、しとこう！

タケシ母 はい。ユミ、起きな！

タケシ妹・ユミ どしたん？

タケシ母 逃げるんよ。

タケシ妹・ユミ なんで？

タケシ母 空襲よ、空襲。

タケシ妹・ユミ え？どないなるん？

タケシ父 母さん！こっちにも来た！逃げえ！出てこいー！

(焼夷弾投下)

タケシ母・ユミ キャー！！

タケシ父 逃げんか！土手まで逃げんかー！

(ユミ、つないでいる手を離し、家に行こうとする)

タケシ母 ユミ！何しよん！どこ行っきよん！

タケシ妹・ユミ ランドセルが…ランドセルがー！

タケシ母 もうあきらめ！

タケシ妹・ユミ いやー、マサル兄さんのランドセルー！ランドセルー！

タケシ父 …母さん、ユミ連れて早う土手まで逃げえ。ワシはランドセル見てくる。

タケシ母 ほんなこと言うたって…。

タケシ父 いけるけん。あとからワシも土手に行くけん。ユミ、ランドセルちゃんと取ってくるけん。ほなけん、母さんと先に土手に行っとくんぞ。分かったな！

タケシ妹・ユミ うん。

アキ曾祖母 ひいじいちゃんのお父さんが土手に来ることはなかったんやと。これが、徳島大空襲。

7月3日の夜、2時間ほどの焼夷弾による爆撃で、約千人の死者が出た。ひいじいちゃんのお父さんも、ほのうちの一人。土手で父さんを待ち続けた母さんとユミさんは、一睡もできんまま、夜明けを待って、家を見に行ったら、家の梁の下敷きになった父さんを見つけたんやって。ほなけど、手には焼け焦げたランドセルをちゃんと握りしめとったって。ユミさんは、ずーっと、「父さんが亡くなったんは私のせいじゃ」って。「私が父さんを殺したようなもんじゃ」って言いながら、亡くなってもう…十年になるかなあ…。けど母さんは、「父さんはマサルの所に行けてよかった」って言よったなあ。

アキ妹・エツコ (泣きながら)戦争ってイヤやなあ。

アキ (泣きながら) ほんで、ひいじいちゃんはどうなったん？
アキ曾祖母 そうそう、ひいじいちゃんは、志願兵に志願して、広島に送られたんよ。
アキ ほんで、ひいばあちゃんに会うたんじゃ。
アキ曾祖母 そう。徳島大空襲の翌月、ヒロシマには、あのピカが落とされただろ。
アキ ピカって、原爆？
アキ曾祖母 そう。
アキ妹・エツコ あの、「はだしのゲン」の？
アキ曾祖母 そう。あのピカで、ひいばあ家族は、みんな死んだんよ。
アキ・エツコ ウソー！
アキ曾祖母 ウソでない。私はたまたま広島市内から離れとったけん、ピカにやられんと、けが人や病人の看護をしようたんよ。ほこで、ひいじいちゃんに会うたん。終戦になってからも、ひいじいちゃんやおるうちにな、一緒に徳島に来ることになったんよ。ひいばあは、もうヒロシマに身寄りもなくなったけんな…。
アキ ひいばあちゃん、何か私…すごいショック！戦争が自分にこなあに関わりがあったや、思いもよらんかった。何か…嬉しいわけでないのに、まだ胸がドキドキしよう。ひいばあちゃん、私、おかしいんかえ？！
アキ曾祖母 ほんなことないよ。ほんだけ、心で分かったっていうことちゃうで。
(「翼をください」)
アキ 戦争って、たくさんのおくさんの、たーくさんの人の思いが、ホンマにいっばい詰まるとるんじゃ。ほれがギリギリのところであつながつて、今の私がおるんよなあ。どこかで途切れてしもうとつたら、今の私はおらんかったんよなあ。ほう思うたら…私、戦争や平和のこと、もっと考えなアカンわ。考えなバチが当たる。マサルさんやマモルさん、ひいじいちゃんのお父さんやユミさんに、申し訳ないような気がする！
アキ曾祖母 うん、うん。
アキ 私、ちょっと家帰る！この思い、伝えたい人がおるけん！ひいばあちゃん、ありがとうー！
アキ妹・エツコ あっ！姉ちゃん！ちょっと待ってー！
ナレーション・アキ ケイタ、今、すごい話がしたい。できることなら、今すぐ会って話したい。ムリだけど…。だから、今すぐメール送る。送るけど、きっと伝えられない、グチャグチャなこの思い…。それがもどかしい。それでも送るから！受け取って！今のこの思い！！

to be continued

終了後BGM 必要なフロアスタッフ以外全員ステージへ
フロアスタッフの名前を全員紹介して後、代表者が舞台挨拶をし、最後に全員手をつなぎ、つないだまま上げ、下ろして礼(閉幕)